

# 同窓会誌

71



特集

「令和」を迎えて「平成」を振り返る  
「平成時代の『私の学生生活の思い出』」

教育学部  
最前線

新しい附属学園  
「附属義務教育学校開校にあたって」

島根大学教育学部同窓会



No. 71

# 島根大学開学70周年

## 記念式典・祝賀会 (10月26日)



服部学長挨拶



来賓の方々と鏡開き

# 義務教育学校スタート

## 附属小・中学校が義務教育学校に



小中学部一緒に全校活動

※P6~14に関連記事を掲載しています。

活躍する教育学部生

# 教育学部同窓会「激励金」贈呈

## 「春陽会」奨励賞受賞の木原幸志郎さん



木原 幸志郎さん

教育学部学校教育課程Ⅱ類美術教育専攻4年生  
兵庫県姫路市 兵庫県立姫路西高等学校 出身  
本格的に制作を始めたのは大学に入ってから。双子の弟、  
健志郎さんとともに切磋琢磨しながら制作を行ってきた。  
今は、卒業制作とその研究に精力的に取り組んでいる。

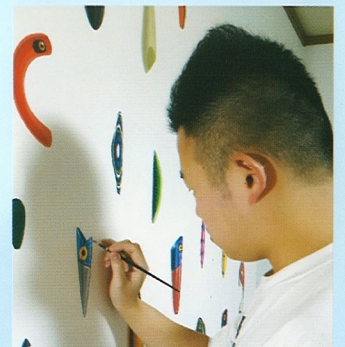
2019受賞作品「Continuous」  
作品に寄せて (木原幸志郎さん)

この作品は神戸の風景で、姫路に帰省するとよくモチーフを求めて神戸に写真を撮りに行っていました。僕の興味の対象はあくまで現実物で、特に人工物に惹かれます。螺旋階段の同じ形が連続的に延々と繰り返されている構成に魅力を感じ、現実にこんなに面白い物があつたのかと思いました。現在は更なる飛躍を求めて新たなスタイルで制作していますが、この作品はとても想い入れのある作品です。



今後一層の飛躍を期待

木原さんは、百年近い歴史を誇る美術団体「春陽会」(東京都)が主催する第96回春陽展の絵画部門の油彩画で第三席に相当する奨励賞に選ばれた。これが2年連続の受賞であり、今後一層の飛躍ができる「作家」である。



※グラビア③およびP84に関連記事を掲載しています。

### 学部ホームカミングデー (10月5日)



こんにちは、先輩先生！



ほっと一息カフェ



### 同期生会



「ひまわりの会」昭和37年卒業 (6月19日)

「社研第34期」昭和61年卒業 (8月10日)

※P61～69に関連記事を掲載しています。

## 令和元年度の同窓会の活動

—同窓会の活性化を願って—

### 役員総会 (6月8日)



総会後の学生による  
「木管楽器の調べ」



### 教育振興奨励賞授与式 (12月5日)



藤井浩基氏受賞

### 激励金贈呈式 (12月5日)



木原幸志郎さん受賞

### 支部活動



東京支部総会 (10月27日)



鳥取県西部支部同窓会有志の会 (10月19日)

※P44～46に関連記事を掲載しています。

# 目次



**カラーグラビア①** 教育学部同窓会「激励金」贈呈 木原幸志郎さん(絵画)

**カラーグラビア②** 島根大学開学70周年、義務教育学校スタート

**カラーグラビア③** 令和元年度の同窓会の活動—同窓会の活性化を願って—

母校今昔 島大のコンパ事情  
巻頭言 バケツとサーチライト—子どもはどのように学ぶのか—  
教育学部長 加藤 寿朗 …… (2)

同窓会は今 新時代の「同窓会」を探りながら  
教育学部同窓会長 有馬毅一郎 …… (4)

**教育学部最前線**  
新しい附属学園 附属義務教育学校開校にあたって  
島根大学教育学部附属学校校長 成相 僚一 …… (6)

**特集** 平成時代の「私の学生生活の思い出」 …… (15)

I 研究室・ゼミで過ごした日々と仲間 …… (16)

II 充実した学外研修 …… (21)

III 教育実習・1000時間体験学修 …… (25)

IV 大学生活エトセトラ …… (28)

V 平成に入学、令和に卒業(現役学生から) …… (31)

第13回教育学部ホームカミングデー …… (34)

□シンポジウム「地域の力が人を育てる!—新しい時代における多様な教育のありかた~」  
発表:藤浦 清香・宍戸 容代・酢谷 大洋 …… (35)

□意見交換・グループディスカッション・懇親交流会 …… (39)

私の研究紹介 …… (41)

教職回顧 …… (43)

**支部からの声** …… (44)

第8回教育振興奨励賞決定 …… (83)

木原幸志郎さんに激励金贈呈 …… (84)

**専攻だより** —研究室はいま— …… (47)

平成30年度島根大学教育学部卒業研究題目一覧 …… (70)

平成30年度島根大学大学院教育学研究科研究成果報告書・修士論文題目一覧 …… (78)

ただいま活躍中!!  
島根初の柔道審判資格で活躍中 濱岡睦月さん …… (80)

母校今昔(続) 島大のコンパ事情 …… (57)

近況報告  
本部だより …… (58) 有志会・同期生会だより …… (61)

「同窓会名簿2020」発行について …… (33)

島根大学教育学部同窓会規約・同窓会個人情報の保護に関する規程 …… (86)

事務局より …… (69)(79)(85)(90)(91)(92)(93)(94)

受贈図書紹介 …… (82) 表紙に寄せて・編集後記

# 母校今昔

## 島大のコンパ事情

「コンパ」は、「学生などが、費用を出し合って催す懇親会」である。島大のコンパ(懇親会)も、親睦を図る、仲間意識を持つ、深い絆をつくることなどを目的として、研究室・部活・その他の繋がり、新入生の歓迎・卒業生の追出しなど、開学以来諸々の名目で行われてきた。今回の「母校今昔」は、島大の「コンパ」を取り上げる。

下の2枚の写真は、島大の部活の昭和44年と平成31年の「追出しコンパ」の写真である。ここから、年代におけるコンパの様子の違いを比べてみたい。

### 昭和40年頃の「追出しコンパ」

- ・会場：白鳥会館
- ・会費：500円
- ・服装：卒業生・3回生の一部がスーツで、私服も多い。  
1回生の中には学生服姿もある。
- ・飲み方：ビールと日本酒が主で、畳の部屋で、注ぎ合って歓談をしながら飲む。
- ・20歳未満の飲酒：「学生だから」と概ね黙認。



### 平成30年頃の「追出しコンパ」



- ・会場：水天閣
- ・会費：5,000円
- ・服装：全員がきちんとした服装で、男女共全員黒色のスーツ姿。
- ・飲み方：以前のように、ビールと日本酒を注ぎ合って飲むこともあるが、ノンアルコールのドリンクや各種

カクテルを各自で飲むなど、飲み方も多様化している。最近では、一時期流行した「一気飲み」や、先輩につがれると飲み干すことなどはなくなっている。

- ・20歳未満の飲酒：厳禁。

※最近のコンパは、20歳未満の飲酒禁止、また、飲み物に対する嗜好の広がりなどに伴って、大きな変化が起きている。このことは、「母校今昔続」で触れてみたい。(P56・57参照)



## バケツとサーチライト

### —子どもはどのように学ぶのか—

島根大学教育学部長  
教育学研究科長  
加藤 寿朗

新しい学習指導要領による教育が小学校では来年度からスタートする。中学校は令和三年度、高等学校はその翌年度と順次、移行する予定である。そこでは、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養が目指される。新しい教育の完全実施を目前に控え、あらためて子どもの学びが問われている。それでは、子どもはどのように学ぶのだろうか。

「子どもはどのように学ぶのか」という、教師の授業づくりの根拠となる学習観には、「バケツ論」と「サーチライト論」という考え方があり<sup>①</sup>。バケツ論とは、バケツに例えられる子どもの頭の中に、情報である水を注ぎ込むことが学習だとする考えである。注ぎ口は五感であり、バケツはもともと空である。バケツに貯まったものは知識となり、知識はやがて社会で生きていくための知恵となっていく。

教師は、子どもの発達段階に応じて大きくなるバケツに、こぼれることなく、できるだけ速く、たくさん水を注ぎ込むように工夫する。このようなバケツ論では、子どもの学び方は静的であり、子どもは受動的な存在だと考えられる。

一方、サーチライト論では、暗闇である環境にサーチライトをあてながら探究していく能動的な存在として子どもをとらえる。物理学者である朝永振一郎の講演記録には、そのような子どもの姿が描かれている<sup>②</sup>。台風が近づいてきて、家の前の木が激しく揺れだした。それを見ていた五歳の子どもが、「日本中の木を全部切ったら、風が吹かなくなるね」と言った。なぜ、そのように考えたのかを朝永は推測した。夏の暑い日に、この子が汗をいっぱいかいていると誰かがうちわであおいでくれた。自分もうちわを使っ

てみると涼しい風が当たって気持ちよかった。そこで、「うちわが揺れると風が吹く」、「物が揺れると風が吹く」、「木が動くから風が吹く」、だから「木を切ったら風が吹かなくなる」と考えたのではないかと。

この子は、「風を吹かなくするにはどうすればよいか」という問いを持った。「木を全部切ったら、風が吹かなくなるのでは」というこの子なりの答え(仮説)も見つけた。このように、暗闇(わからないこと)を照らすサーチライトは、「問い」と「仮説」からなる。サーチライト論では、五歳の子どもも環境に対して「問い」と「仮説」をもって動的に学んでいく、有能な存在だということになる。

バケツ論の立場に立てば、授業は教師が課題を与え、子どもが課題を解決する学習となる。サーチライト論に立てば、子どもが問題を発見し、解決の方法を考え、実際に問題を解決していくことになる。「生きて働く」「未知の状況にも対応できる」「学びを人生や社会に生かそうとする」、そのような資質・能力の育成にはどのような学び方が必要だろうか。新しい教育への移行が模索される今、教師の授業づくりの根拠となる学習観の問い直しが求められている。

(1) K・ポパー「バケツとサーチライト——二つの知識理論」『客観的知識』木鐸社。

(2) 朝永振一郎『科学者の自由な楽園』岩波文庫。

加藤 寿朗氏 プロフィール

昭和三十七年、出雲市大社町(旧簸川郡大社町)生まれ。

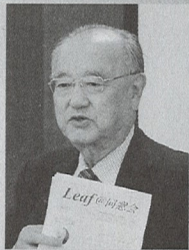
広島大学大学院学校教育研究科修了、博士(教育学)

島根県の公立小学校教諭、広島大学附属小学校教諭、愛媛大学

助教授を経て、平成十五年より島根大学教育学部助教授。平成三十年より現職。専門は社会科教育学。

# 同窓会は今

## 新時代の「同窓会」を探りながら



教育学部同窓会長

有馬 毅一郎

### 一、母校の「開学七十周年」と同窓会

戦後間もない昭和二十四年、新制国立大学として発足して以来、七十年になりました。

永年寄り添ってきた「教育学部同窓会」としても、改めて歩みを振り返り、現状をみつめ直す機会にしなくてはなりません。

同窓会が、爾来「目的」にしてきたことは、次の三点に要約できます。(規約から)

- ① 会員の緊密な連絡、親睦を図る。
  - ② 教育の振興に尽力する。
  - ③ 教育学部の発展に寄与する。
- 過去、同窓会会員がこの目的を共有し、活動を積み重ねて、数々の実績を残してきたことは、周知の通りであり、私たち同窓会の誇りでもあります。

そのような状況の中で、私たちは、近年「人と人のつながり」「絆」「縁」の大切さを強調しながら、同窓会のあり方、活性化を探り始めています。

### 三、同窓会の今一努力していること

以上のように、今、大学・学部と同様、同窓会も厳しい状況に置かれています。その根本的解決策は見い出せませんが、現状や現在努力している点をお示しして、会員の皆様の理解と協力・支援を仰ぎたいと思います。

○理事長を中心に、組織や活動を検討する会を、随時開催し、問題点を共有し、可能なことから実行してきています。

○「同窓会」の根源的な意義や意味を問う特集を「同窓会誌」や「Leaf@同窓会」でも取り上げ、課題を会員の皆様と共有する努力をしてみました。

○ホームページを刷新してその体制を整え、活動の状況をその都度伝えていきたいと考えています。

○「支部活動の活性化」を標榜し、支部ごとの研修会などの活動の広がりを目指しました。

○中国地方各県支部の開設の働きかけをし、鳥取西部支部他の開設が見込まれてきました。

○在学中から「同窓会」への関心を強化してもらうために、学生への新たな活動を追加しました。(ほっと一

しかし、現在、どれだけ目的を実現できているかを評価したとき、残念ながら「不充分」と言わねばなりません。同窓会の歩みを辿ると、平成時代が進むにつれて、次第に様々な課題を抱えるようになってきたようです。

### 二、平成時代と同窓会

平成という時代は、様々な振り返ることが可能です。が、「平和」「自然災害」「AI」等のキーワードの他、財政難、一極集中、人口減少、高齢化等々、政治・経済・社会の構造的変化を見てきました。

このような中で、事例は省きますが、戦後華々しくスタートした組織・団体の多くが、苦しい状況に遭遇してきてしまったように思います。

私たちの母校「国立」鳥根大学も、特に平成の後半は「法人化」の外、様々な改組を繰り返して実施してきています。教育学部も段階的に規模の縮小等の厳しい状況を経験してきました。

同窓会も苦難の道を歩んでいます。一例に過ぎませんが、会員数の減少等により、年間の予算規模は、平成初期に比べ、現在は三分の一以下になりました。「同窓会誌」に報告される各期等の同窓会の開催数も減少が進みました。かつて大学・学部に対して実施していた施設・設備の充足支援(寄附)等もできなくなってきました。

息カフエ「こんにちは、先輩先生」等

○編集委員会のスタッフを増強しました。

○四年に一度の「同窓会名簿」発行のために、アンケートを実施、名簿の一層の精緻化をめざす努力もしています。

以上、活動の状況を列記しました。

これらを、冒頭示した同窓会の目的①②③に照らしてみるとき、どのような評価を得ることになるでしょうか。ご意見をいただきたいと思います。

### 四、令和新時代の同窓会のあり方は？

私たちの同窓会は、人間社会にとって基底となる「教育」や「人と人のつながり」に関わる組織だと思えます。自負を持って、母校の「応援団」としての力も強める工夫を凝らしたいものと思えます。

そのために、卒業生・会員の皆様のご理解とご協力を得て、共に一体感のある活動が進められるよう努めたいと思います。



「こんにちは、先輩先生」



新しい附属学園  
附属義務教育学校開校にあたって



島根大学教育学部  
附属学校校長

成相僚一

一 附属義務教育学校開校

島根大学教育学部附属小学校と附属中学校は、平成三十一年四月一日付けで「島根大学教育学部附属義務教育学校」となりました。

開校式は、四月八日に旧附属中学校体育館で、島根県教育委員会教育長をはじめとする来賓を迎え、大学関係者と教職員、児童生徒の二年生から六年生までと八年生、九年生が参加しました。

はじめに小学校、中学校の旧校旗を児童生徒代表からそれぞれ校長・学長へ返納され、その後、学長から新しい校旗が、校長・児童生徒代表に授与されました。

服部学長は、「九年間の義務教育学校の教育で、共同的・探求的な学習をより深化させるとともに、世界的な視野で物事を考え、自分の住む地域を世界に誇れる街にするために行動できるグローバル人材の育成を目指す」と、教育学部以外の学部とも連携して児童生徒の知的好奇心をさらに「育む」と挨拶され、児童生徒代表は、「これまでの伝統を大切にしつつ、さらに一年生から九年生

がともに手を取り合って一人一人の夢がふくらんでいく、そんな学校にしたい」と挨拶しました。その後、教職員と児童生徒で新しい校歌を披露して、開校式は終わりました。

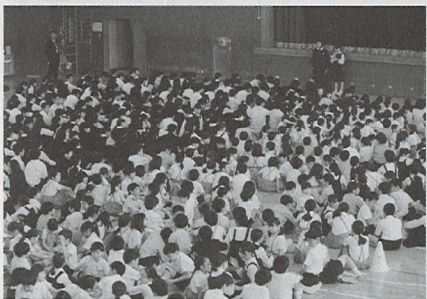
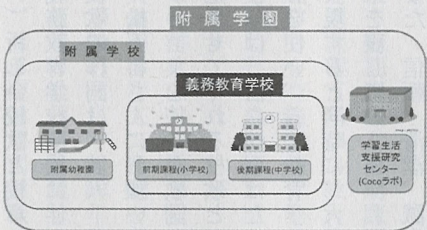
今回は、この新しくスタートした附属義務教育学校について、紹介したいと思います。



二 附属義務教育学校の特徴

義務教育学校の修業年限は九年です。附属学校では、幼稚園から数えると十一年間の一貫した独自のカリキュラムで学習することになります。幼稚園から前期課程

新たな体制 附属学園



(小学校)への遊びから学習へのつなぎ、前期課程(小学校)、後期課程(中学校)の教科のつなぎが円滑にできるようなカリキュラムやこれからの時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力を育成するための学校独自の学習等を導入することが求められています。また、すでに導入している前期課程での教科担任制(五・六年生)やこれまでにない新たな教科を設置することもできます。

そこで、これまでの幼小中一貫教育で取り組んできた附属学園の教育理念は継承し、附属学園で育てたい子どもたちの姿を引き継ぎながら、義務教育学校としての特色を出していきたいと考えています。

義務教育学校に変わったことで、次の点が大きく変わります。

- ・前期課程修了時の卒業式がなくなります。
- ・六年生から七年生へは進級となりますので、前期課程の児童は後期課程の入試を免除します。
- ・始業式・終業式・修了式は、原則前期課程・後期課程合同で行います。

また、次の点については、今後の検討課題となるところです。

- ・後期課程の「入学式」は、本来なら「進級式・編入式」となるものですが、当分の間「入学式」として行います。
- ・各課程で行っている行事について、児童生徒の発達段階を踏まえて、今後合同で行えるものについては合同で行えるよう工夫改善します。
- ・教員の相互乗り入れについて、免許の制限等もあることから、できるところから実験的に進めて行きます。
- ・PTAの組織、教育後援会等については、以前のままで、前期課程、後期課程で別々になっています。将来的にどのような組織にしていくなか今後の検討課題となっています。

(校歌は、島根県書道協会理事 元附属小学校教諭) 大畑俊正先生に揮毫して頂きました。

十月二十三日(水)には、松下耕先生を本校に迎え、前・後期課程で合同集会を行い、全員で校歌を歌い感謝を伝えました。また、オーケストラ部が演奏する校歌の編曲も完成したので、この日に先生に指導を受けました。今後、様々な演奏会で校歌が披露できることと思えます。

### (二) 附属学園の教育目標

義務教育学校開校とともに、附属学校としての教育目標を次のように統一しました。

#### 新しい時代を切り拓き、

#### 社会に貢献しようとする子どもの育成

確かな知識を基盤としたすぐれた判断力・行動力を持ち、協働して豊かな社会の実現に果敢に挑戦しようとする。

#### 豊かな感性を育み、

#### 創造的に探究し続ける子どもの育成

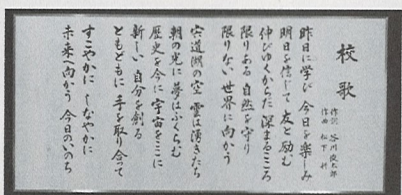
人や事象の持つ様々な価値や本質をイメージ豊か

### (一) 新しい校歌と校章

義務教育学校開校に伴い校歌と校章を一新しました。校歌の作詞は、詩人 谷川俊太郎さん、作曲は、音楽家 松下耕さんにお願いしました。わかりやすく伝わりやすい言葉を使った歌詞で、雄大なメロディーが未来を創造させてくれる校歌となっています。

校章は、白鳥が羽ばたく大空の青色をモチーフにした色彩を使い、義務教育学校で学ぶ子どもたちの若々しさを表現すると同時に、大空の先にある夢と希望に満ちた未来を表しています。

また、信頼、清潔、誠実、知性を連想させる色彩として青色(エデュケーションブルー)を使っています。



※グラビア②に校章写真を掲載しています。

にとらえ、知的好奇心を持って学び、探究し続けていこうとする。

人とのかわりを大切に、

#### 共に伸びていく子どもの育成

自他のよさと可能性を尊重し、支え励ましあいながら、よりよい人間関係と自己の伸長を図っていきましょうとする。

この目標のもと、各校園で「めざす子ども像」を具体的に考え、子どもたちに身につけたい資質・能力を育むよう実践・研究します。

### (三) 前期課程、後期課程の連携の充実

前期課程五年から教科担任制の充実を図り、より一層基礎学力を身につけ、生きて働く知識・技能の習得等、新しい時代に求められている資質・能力を育む授業を展開します。

これからは、前期課程・後期課程の区別なく、一つの教員集団としての意識を高くもつことを求めています。その手始めとして、昨年から行っている授業研修会を前期・後期の教員が協働して企画・運営をしています。さらに、今年度は前期課程の授業に後期課程の教員が乗り

入れることを中心に教員の連携・協働の充実を図っていきます。将来的には、前期課程の教員が後期課程で授業をしたり、後期課程の教員が前期課程で授業したりすることができるよう組織を整えます。

また、後期課程の校舎を利用した前期課程の授業や、六年生から七年生の接続を意識した前期課程の授業への乗り入れ、六年生の後期課程の教室等での授業の実施など、前期課程・後期課程が区別なく交流できる環境も整えていきます。

(後期課程体育館で活動する前期課程児童の様子)



### 未来創造科の目標

探求的な見方・考え方を働かせ、地域や社会が直面する課題に取り組み未来創造科の学習を通して、創造的な問題解決や未来志向的な構想・提案に携わること、自己の生き方や社会の在り方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- 一 地域や社会が直面する課題をテーマとした探求的な学習過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、課題が生じる背景を捉えることができる。
- 二 地域や社会が直面する課題の解決に向けて問いを立て、その解決に向け、試行錯誤し、探求の結果を地域や社会に対して発信・表現することができる。
- 三 地域や社会が直面する課題をテーマとした探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを認めたり活かしたりしながら、地域や社会の未来を担うための行動を創造的に考え実践できる。

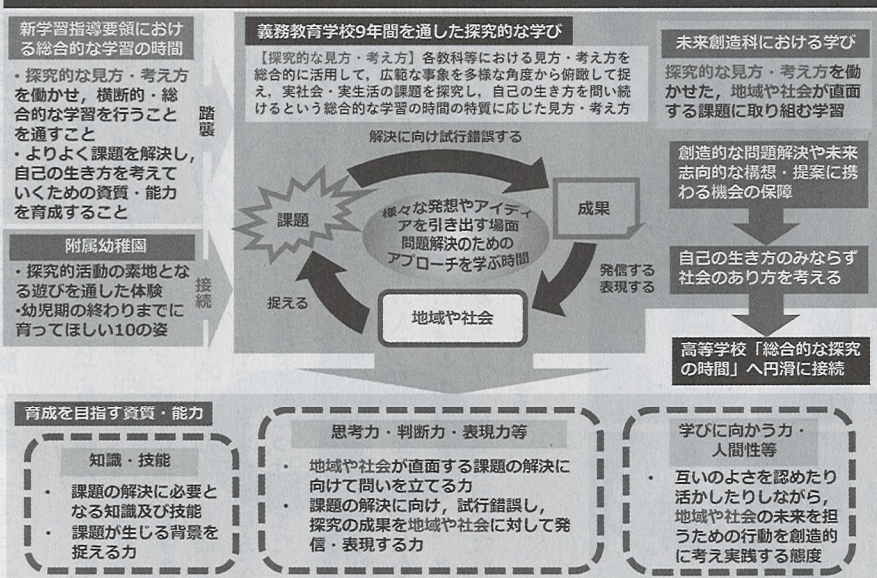
(四) グローカルな考え方と実践力(世界的な視野で物事を考え、自分の住む地域を世界に誇れる町にするために行動できる)をもつ人物の育成

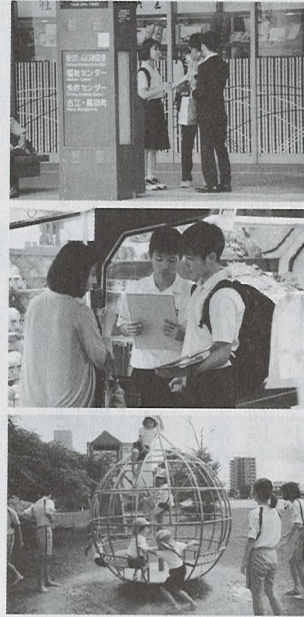
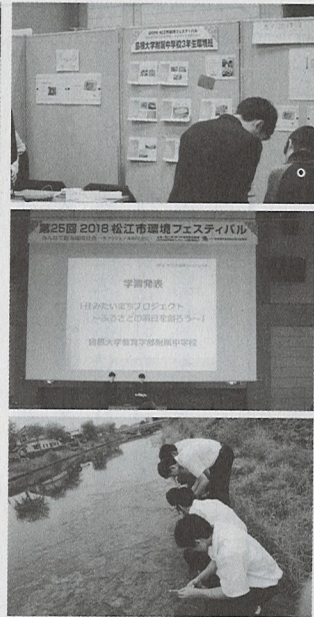
### ①新教科「未来創造科」の設置

昨年まで附属小学校、附属中学校で行っていた「生活科」、「総合的な学習の時間」を統合し、一年生から九年生までを貫く新教科「未来創造科」の授業を設けました。前期課程では、各学年の教科・領域で学んだことを関連させながら、日常生活や身近な地域・社会に目を向け、子どもが自ら課題を設定し探究的な活動に取り組んでいます。後期課程では、さらにこれを発展させ、教科・領域での学習成果を活用し、地域課題の現状分析や課題解決的な地域活動を通して、地域を住みたいまちにするための未来志向的課題解決に取り組み、その成果を地域に発信していきます。

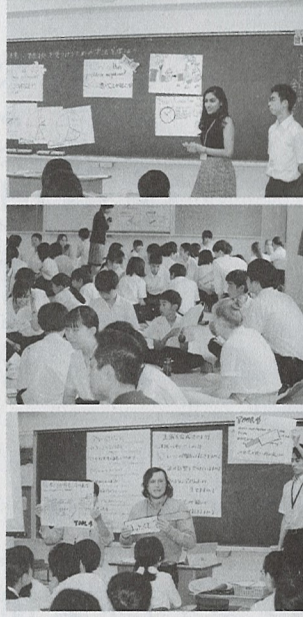


### 附属学園「未来創造科」概念図

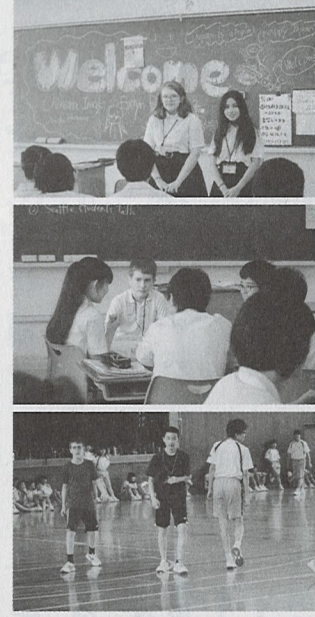




今年度は、九年生が十一月一日（金）に発表会を行いました。島根県教育委員会、島根県教育センター、松江市教育委員会だけではなく、県の行政機関や鳥取県にも案内を送り、未来創造科の発表を県内外に広く公開し、提案しています。また毎年、松江市環境フェスティバル等から参加の要請があり、情報発信する機会を増やして頂いています。



（ミシガン大学の学生と合同で授業した様子）



（シアトルの中学生と交流した様子）

②国際理解の推進、異文化交流体験の推進、コミュニケーション力の育成

これまで附属小学校、附属中学校で取り組んできた学習を基盤とし、前期課程では、外国語活動、外国語科の授業の充実はもとより、学年に応じて様々な国の留学生との交流を行っています。今後もいろいろな国の言語や文化等を学ぶ学習に積極的に取り組み、世界に羽ばたくためのコミュニケーション力の基礎を身につけさせたいと思います。また、後期課程では、留学生との交流授業やホームステイの受け入れ等も継続しながら、考え方や価値観、文化の違う多様な国の人たちとの交流や授業を充実させていき、コミュニケーション力はもちろん、グローバルな考え方や実践力を身につけ、世界に羽ばたいていける人物を育てていきたいと思っています。

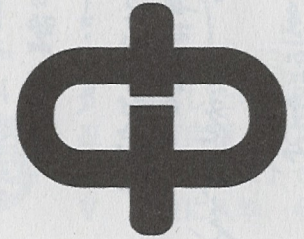


（アーカンソー大学の学生との交流の様子）

以上、新しく開校した義務教育学校について簡単に紹介させていただきました。始まったばかりですので、これからの活動にご期待ください。さらに、今後も「地域に必要とされる附属学園」として、その教育課程や教育組織、施設の活用などを研究開発し、地域に貢献する附属学園として積極的に情報発信を行っていききたいと思います。

《資料》

旧校章



（附属小学校）

（附属中学校）

# 「令和」を迎えて「平成」を振り返る 平成時代の 「私の学生生活の思い出」

「平成」が終わりをつげ、「令和」という新しい時代が始まりました。本号(71号)の特集では、この節目の年に平成時代の卒業生に「私の学生生活の思い出」と題して寄稿してもらいました。

中を読んでみると、学内施設の変化、1000時間体験学修の必修化、コンビニの登場等、同じ平成時代と言っても、30年間の中で、学内の景色も、大学での学びも、日々の生活も大きく変わったと感じます。

卒業生の皆さん、特に若い世代の卒業生が、鳥根大学での生活を懐かしく思い出し、同窓生の動向に思いをめぐらせ同窓会を開いてみたいと思う契機になれば幸いです。



## 特集

- I 研究室・ゼミで過ごした日々と仲間
- II 充実した学外研修
- III 教育実習・1000時間体験学修
- IV 大学生活エトセトラ
- V 平成に入学、令和に卒業(現役学生から)

### 旧校歌

(附属小学校)

#### 校歌

作詞 山根徳右衛門  
作曲 大久保博幸

八重雲こむる神國や  
水明の都松江なる  
千鳥が城の老松に  
孫も深き学びの舎  
教への道にさきがけの  
栄あるつとめ身において  
伸びに伸びゆくわがらの  
望みはいとも高きかな

(昭和三年制定)

(附属中学校)

#### 旧く校歌

一 愛宕の森の下道に  
敵の患露しゆく  
柘は常盤の色厚き  
二 雲の舎のどよと上  
高き道我と真堂の  
命あまのり反塔中

三 空道の湖の多風は  
型の宿懐しくく  
雲在果ちり空を行く  
管沙園のゆゆしよ  
情より和と反露の  
定ありあり反塔中

作詞 竹友 藤風  
作曲 長谷川良夫  
(昭和二十六年制定)

#### 旧校歌

一 千鳥城を雲沸き  
空道湖の碧石に映る  
伝統のまじり地にて  
真善美を水水は空能と  
ああ附中母枝の誇り  
水も新し日々文化創る

二 出雲富士遠かに望み  
あの姿わが如理想  
四季つねに努力志小す  
相映け一途に学ぶ  
ああ附中母枝の誇り  
水も新し日々文化創る

作詞 草野 心平  
作曲 山本 直純  
(昭和五十二年制定)